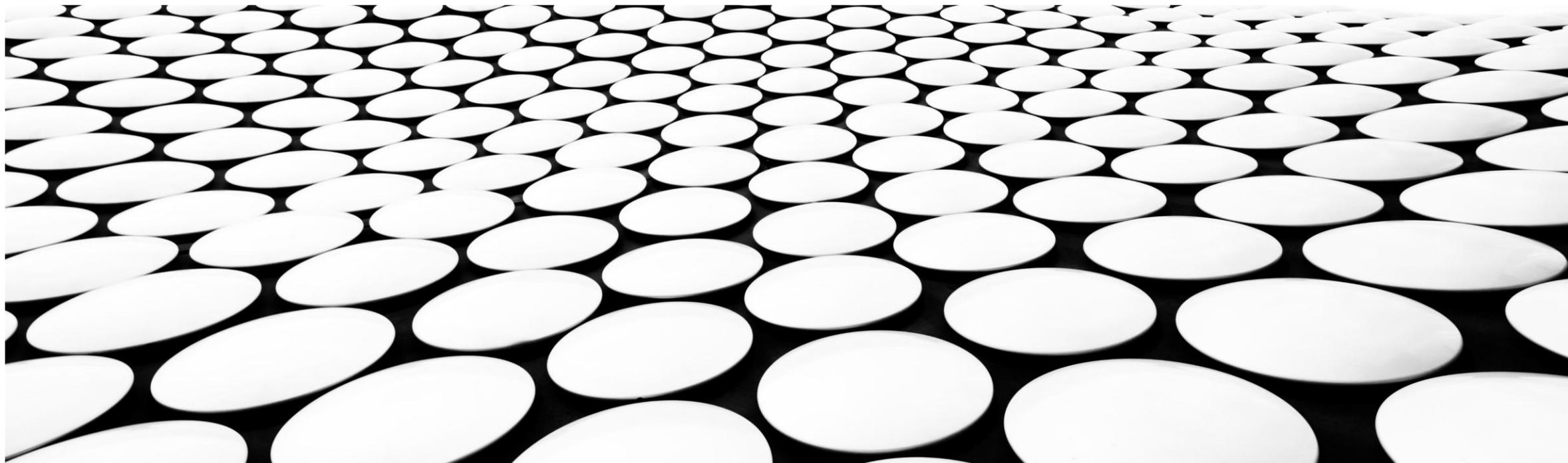


令和6（2024） 中学生の意見に対する県の回答

学校法人宇都宮海星学園星の杜中学校



令和6（2024）中学生ワークショップ

学校法人宇都宮海星学園星の杜中学校

令和6（2024）年5月1日（水）13:50～15:35

2年生対象 生徒24名

中学生ワークショップ意見まとめ

意見に対する県の考えや取組状況、対応方針等

フィードバック

学校法人宇都宮海星学園星の杜中学校

令和7（2025）年1月29日（水）

2年生対象

栃木県庁関係各課

総合政策部、生活文化スポーツ部、保健福祉部、環境森林部

産業労働観光部、教育委員会事務局

テーマ1「なんで失敗が怖くなる？」

理由

- 高校生や大人の前で発表する時など、慣れてないことをやる時怖いと感じる。
- 中学生は大人だから、できるという目で見られる。結果も出さないといけない。だから失敗もより怖くなる。
- 中学生になって、まわりの目が怖く感じる時がある。そんな時失敗が怖くなる。
- みんなの前で話す時、恥ずかしい。恥ずかしいと感じると、失敗したくないって思う。
- 友達や家族は応援してくれるから怖くない。他人に見られるのが怖い。どんな風に思われるか気になる。
- 逆に親や友達の応援がプレッシャーになることもある。
- いろんな経験をして感情が出てきたから怖い。
- まわりと自分を比べてしまって、すごく失敗が怖くなる。

県の考え

成長に伴い結果を求められることや、様々な経験をするによって、失敗が怖くなるのが分かりました。一方で、家族や友人の存在は心強い味方になることも分かったため、家族や学校、その他の場所における周囲の存在が大切であると認識しました。これにより令和5年度に実施したアンケートの回答をさらに深掘りすることができました。

対処方法

- 失敗するからこそやれるが増える。次に繋がるとポジティブに考える。
- 粘り強さをつける精神的なトレーニングが必要。
- 成功の確率が上がるという経験があれば良い。
- 失敗することで成長できる。次に失敗しないようにする。
- 信頼関係ができていれば失敗しても大丈夫。

県の考え

失敗への対処法は人それぞれであり、逆にポジティブに捉え、次につなげようという意見も多くありました。また、それには信頼関係のある人が周囲に存在することが大切であるとの指摘もありました。このことから、自分の失敗を許してくれる居場所や経験の大切が浮き彫りになっていると考えられます。県では、居場所の大切さを改めて認識し、策定中の「[栃木県こどもまんなか推進プラン](#)」に「[健やかな成長を支える体験や居場所の提供促進](#)」を記載し、様々な事業を実施していきます。

その他

- 小学校の時と比べて、失敗を恐れなくなった。なぜなら、小学校の時よりもいろんな経験をして失敗に慣れてきたから。自分自身を客観的に見られるようになったから。自分自身をほめることを心がけているから。
- 「失敗してもいい」って言われただけではだめ。言葉だけではだめ。

県の考え

失敗を逆に恐れなくなったという力強い声もありました。その理由や対処法も冷静に分析しており、驚きが大きいものでした。また、「失敗してもいい」と言われても、なかなかそう思うことができないという現実を示してもらえました。「失敗してもいい」ということを、言葉だけではなく、環境で示していくことが大切であることを認識しました。

テーマ2「居心地の良い居場所って？」

場所	状態	その他
----	----	-----

- 前は都会が良いと思っていた。今は田舎の良さに気づいた。静かなところがいいなと思った。
- 落ち着く場所、居心地の良い場所「トイレ、旅館、景色の良いところ(自然)、家、ベッド、カフェ、音楽室、体育館、ラウンジ、飛行機、コンサートホール、乗り物」など
- 自分の部屋と犬がいる部屋。一緒に居てくれる。おもちゃで遊んでいる。

- 友達や家族とか、心が落ちつく人と一緒にいる。
- 友達と日常の話、思い出話、恋バナをしているとき。
- 家族は話しやすいし、喧嘩しても居心地がいい。ずっといられる関係性。
- 好きなことに夢中になっているとき。
- 自分の素が出せる場所かどうか重要だと思う。

- ネットの居場所はあまり気にしない。
- 小学生の時は行動範囲が限られている。

県の考え

自分の部屋など、静かなところが居心地が良いと感じている人が多いいました。落ち着く場所、居心地が良いと感じる場所は人それぞれであり、場所に注目すると多種多様で、一言では分類できないことが分かりました。

県の考え

状態に着目して居場所を考えると、家族や友人など、一緒にいる人がどのような人かが重要であることが分かりました。このことから、県では家庭や地域においてこどもの成長を見守る必要を改めて認識し、策定中の「栃木県こどもまんなか推進プラン」に「地域全体でのこどもの成長、子育ての支援促進」を基本的方向に記載し、様々な事業に取り組むことで、こどもや若者の成長を支援していきます。

県の考え

令和5年度に実施したアンケートでは、中学生の居場所として、「LINEなどのグループチャット」や「SNS、掲示板などのオンラインサービス」の数値が小学生や高校生と比べて高くなっています。しかしながら、そこまでネットの居場所を重視していないという意見もあり、この数値が高くなった理由の分析は難しいものとなりました。

テーマ3「どんな大人になりたい？」

性格

- 優しい人。頼りがいのある人。親。頼れるお父さん、尊敬できるお母さん。
- 人間関係がちゃんとしてる大人。好き嫌いがはっきりしてる。苦手な人とは関わらない。いやなことはいやと言える。
- 場の空気を読めない大人、金遣いが荒い大人にはなりたくない。
- 真面目、尊敬される人。

働く

- 休みが取れない仕事は自分としてはダメ。やりがいを感じて、趣味も楽しめる働き方がいい。人を笑顔にしたい。
- ゲームを開発したい。
- お金持ち。1,000万円もらえて楽しめればいい。お金が全て。すごい人の周りで働きたい。
- 人の役に立てるようになりたい。
- 安定している職業がいい。
- 生活に困らないくらい。
- 生きていけるくらいのお金。家とか車買いたい。
- グローバルな仕事をして英語を使いたい。

その他

- 海外に行きたい、住みたい。
- 将来結婚するかどうかはわからない。
- 豪邸までは行かないけど、家が欲しい。
- 栃木にいるイメージ。●海外にいるイメージ。

つきたい職業

「女優、薬剤師、スポーツ選手のトレーナー、調理師、MR、医療営業、eスポーツ選手、漫画家、小説家、航空系、医療系、クリエイター、公務員、保育士、航空管制司令官、プロスポーツ選手」

県の考え

尊敬されるようなしっかりとした人物になりたいと考える人が多く、そのような親になりたいという人もいました。このことから、県は、策定中の「[栃木県子どもまんなか推進プラン](#)」に「[子ども・若者の心身の健やかな成長を支える環境の整備](#)」や「[若者の将来の希望を叶える取組](#)」を基本的方向に記載し、様々な事業に取り組むことで、皆さんが思い描く「理想の大人」へと成長できるよう、支援を行っていきます。

県の考え

将来希望する職業は極めて多種多様であり、皆さんの将来の活躍が楽しみなものになっています。働き方や給与などの希望も人それぞれで、趣味を楽しみつつ働きたい人もいれば、多くの収入を得たいという人もいました。今後、皆さんに、一人ひとりが個性を発揮しながら希望する形で働いてもらえる栃木県を目指すため、企業の誘致や働き方改革の取組を引き続き実施していきます。

県の考え

結婚のイメージを持たない人が増えていることが分かりました。結婚や子どもを持つことは個人の自由ではありますが、県においても希望される方への支援はもちろん、[結婚などについて考える機会の提供を進めていきます](#)。就職、結婚、子育てなど、[人生を大きく方向づける可能性が高いライフイベントについて主体的に考えられるよう講座の実施や冊子の作成などを通して、若者の自己実現の支援に取り組んでいきます](#)。

テーマ4「こども若者への意見聴取の方法」

方法

- 学校で対面はよい。ファシリテーターがいると話しやすい。友達と話し合うと本音が出せる面もあるけど、知っているがゆえに、どう感じているか気にしてしまうこともある。
- ちょっと言いにくいことも他に見られないから、LINE等にかきたい。
- インスタグラムに写真を載せて話を聞いてみるのだと見るかも。
- オンラインだと喋りづらい。一人で喋ってる感じがする。●オンラインだと遠慮する。
- 興味がなければスルーされるので、SNSの活用は向いていない。むしろ、HP広告などの方がアンケート収集できると思う。
- 匿名で電話で聞く。直接だと怖い。●プライベートなことはアンケート。特定されない方がいい。一緒に話す人による。
- アンケートは選択式、個数は少なく。●学校からのアンケートの活用。●話したりする方がいい。いろいろな人の意見も聞けるから。
- 今回のようなイベントもたまにはいいと思う。
- 人間に言うのは大変。Zoomとかで匿名とかではないがカメラを切った状態なら話しやすい。
- 親とこどもと一緒に集めるイベントを開催して、アンケートに答えてもらう。

県の考え

意見聴取の方法については、オンライン形式のデメリットをあげ、ワークショップのような対面方式の方が、正確に意見を伝えられるという声が多く上がりました。一方、直接意見を伝えにくい人への対応を求める声やアンケート形式を求める声もありました。このことから、県においては様々な意見聴取の方法を検討し、実施することを予定しています。具体的には、こどもモニター事業を継続し、アンケート方式による意見聴取を行う一方、好評であったワークショップについても、開催回数を増やせるよう、準備を進めていきます。

広告

- 広告は、LRTの電車の広告や停留所に貼ってあるといい。
- SNS(Instagram、TikTok等)での広告、教科書にいれる、
- 親に知ってもらう。
- QRコードで読み取る。
- インスタやYouTubeなど、中学生が見ているコンテンツを用いるのが良い。
- YouTubeショートで募集かける。ショート投稿に文字を入れる。

県の考え

SNSでの周知は既に実施していますが、情報を届けたい方になかなか届かないという課題があります。中学生の皆様へ届けられるよう、もらった意見を基に宣伝方法を検討します。また、交通機関での広告については、こどもモニター募集時にも駅構内広告や路線バス車内広告の掲示も実施しましたが、LRTや電車の車内広告の掲示や、より見てもらえる位置に掲示するなど、今後さらに検討を続けていきます。

テーマ4「こども若者への意見聴取の方法」

動機付け

- フォームで答えたら1,500円のQUOカードをプレゼントする。
- アンケートを答えたらお菓子プレゼント。
- オンラインで、質問アンケートが来るならやるかもしれないが、家の外に出るのは面倒。
- 押し活だったら行こうと思う。押しに会えるなら参加するかも。
- 答えてくれた人には抽選で、これ当たりますよというのがあるといい。
- 自分が楽しそうだなって思う内容だったら参加する。面白そうなのが一番きっかけになる。
- 賞品(プレゼント)がもらえるアンケートなら参加するかも。図書券がもらえるアンケートが多い。
- プレゼントがなくても楽しそうだったら、参加するかも。自分の将来に繋がりそうな話だったら。
- こども用のブースを作って、キッチンカー出店。
- 人気ゲームと提携してイベント。
- こどもたちに人気の有名人を招いてイベント。

県の考え

意見を聴取する場合、何らかの特典(インセンティブ)を用意する大切さを改めて認識することができました。予算の関係上、豪華な特典を用意することは難しいですが、こどもモニター参加者に何らかの特典を用意できるよう、今後の参考とさせていただきます。

また、イベント内で意見を聴取するというのは新しい視点でした。意見が偏るなどの課題も考えられますが、方法の1つとして参考にいたします。

メンバー

- 友達と自由に組んで、話せる方が良い。
- クラスメイトよりも普段から話している人の方がいい。
- 性別で固めた方が良い。
- 違う学校の初対面の人と1時間くらいディベートするのもよいかも。
- 全員同級生だとまとまらない。機会を与えてくれて大人がしきってくれるとよい。
- 大人がいないと話が進まない、別の話になっちゃう。
- 話しやすい人「年が離れていない年上の人、面白い人、話しやすそうな人、問いをかけてくれる人、性別が一緒」

県の考え

ファシリテーターなど取りまとめをする存在の必要性を上げる声が多く、県としてもこどもたちの意見を引き出す存在は必要と考えています。そのため、令和7年度に実施するワークショップにおいても、ファシリテーターに協力をお願いする予定です。本音で議論が交わされるよう話しやすい人とワークショップを行いたいという意見も多いですが、一方で他の学校の人などと交流したいという意見もありました。県としては、異なる価値観を共有するようなワークショップの意味も、少なからずあると考えており、今後、実施方法を検討するにあたり、参考にいたします。

テーマ4「こども若者への意見聴取の方法」

選挙制度

- 選挙権を16歳にする。
- 小学生から選挙権を与えていい。
- 選挙権は中学生からでいい。
- 議員の年齢制限を下げた方がいい。男女比5対5に。

県の考え

いただいた意見を実現するためには、国の法律を改正する必要がありますので、県で対応することは難しいですが、県庁内で共有します。

その他

<感想>

- いい機会だった、自分のことを話せるし、人の違う意見を聞くことができる。
- 自分の気持ちを話すのは楽しい。
- シェアする時間があるのが緊張した。

<ワークショップのやり方>

- 全員同級生だとまとまらない。機会を与えてくれて大人がしきってくれるとよい。
- ソファーとかあるようなラウンジみたいな場所、発表する時に見えるようにシェアする。
- 外でもいいかも。
- 音楽があった方がいい。

県の考え

意見聴取について、全体として前向きな意見が多く、今後もこのように意見聴取を実施する機会を積極的に設ける必要があると改めて認識しました。県では、「[栃木県こどもまんなか推進プラン](#)」に「こども若者の社会参画や意見表明の機会創出」を記載し、様々な事業のもと、こどもや若者の意見聴取、反映に取り組んでいきます。開催方法の提案については、[令和7年度以降の参考](#)にいたします。